



私の
こだわり
komachi's
point

左/墨出しは道具が少なめ…といっても、腰の周りはこのとおり。「何をどこにつけるかは職人さんごとに違って、それぞれの個性が出てます」

右/墨つばにもいろいろあり、左の峯のものとは比べて、右の安藤職長のものは昔ながらの形に近い。

「土木科みたいなところで、授業で測量関係もやってたんですが、そのころから将来こういう仕事をすると決めていたわけではないです」
学校をやめた後上京し、アルバイトをしながら就職情報誌を見て現場系の仕事を探した。
「みなさんよく間違えるんですけど、会社名がたいい『〇〇測量』ってなるから測量をする仕事だろうと思ってる人がほとんどなんです。私も授業で測量の機械を使っていたので、それならできかなと思って…」
いわゆる地図の作成や土地の調査のために行われる測量と建築測量は、使う道具は同じでも似て非なる職種である。峯が最初に入った会社

「仮囲いの中」へのあこがれ
そもそも、男性が圧倒的に多い業界に敢えて入ろうという女性は、どんな思いを抱いて飛び込むのだろうか。
「(工事現場の)仮囲いの中って、一般の方は見ることができないですよ。私はまずそこに興味があつて。お昼休みになると、そこから作業着姿の男性が出てきますけど、そういうところを見てかっこいいなと思っていました」
高専で土木を学び、東京へ
墨出工・峯生紗は、一九八六(昭和六十一)年、石川県生まれ。地元の高専専門学校では環境都市工学科に在籍した。
「土木科みたいなところで、授業で測量関係もやってたんですが、そのころから将来こういう仕事をすると決めていたわけではないです」
学校をやめた後上京し、アルバイトをしながら就職情報誌を見て現場系の仕事を探した。

は建築測量、すなわち墨出しを専門に行う会社だった。
「興味だけが先行していて、仕事の内容なんかまったくわからなかったんですけど、楽しかったです。特に先人観があつたわけでもないんですけど、仮囲いの中って、思っていたとおり世界だなんて。女性が少ないのも覚悟はしてましたが、それでも意外というなあと」
とはいえ、やはり厳しい職人気質が色濃く残る職場でもあり、ミスが続いたりすれば容赦なく怒号が飛ぶ。
「もちろん怒られたり怒鳴られたりもします。でもそれって、他の仕事でもありますよね。ちゃんと理由があつて怒られてるわけで、あとでアドバイスしてくれたり、何がいけなかったか言ってもらえたりしますから、全然大丈夫です」
「そこにきちんと建っている」と「成果」
墨出しの仕事は、他の職種が正確に作業を進めるためのまさに「基準」となる工程。建物が完成に近づくにつれ、その「痕跡」は見えづらくなっていく。
「墨出して、完成したら全く消えてしまう仕事なんで、目に見える成果が残るっていうことはないんですけど、でも私たちがいなければ建物は建たない。まだ入って間もないころ、完全に任せられたわけじゃないけどちょっとお願い

輝
け!

けんせつ小町

墨出工

峯 生紗

豊洲新市場(仮称)
水産卸売場棟ほか建設工事



「けんせつ小町」は、日建連が定めた建設業で活躍する女性技術者・技能者の愛称です。

建設現場の床に書かれている「基準墨」。地味な工程だが、その後のすべての作業の精度を決める大本であり、これを計測して書き入れることが、あらゆる工事の基本にして重要な端緒となる。今回は、この道で10年近い経験を持つ女性墨出工に、仕事の特性やこれまでの職歴を話してもらった。





先輩にあたる安藤職長とのコンビで墨出しを行う。「女性の職人さんは20年くらい前からいましたけど、峯さんには職長を目指してほしいですね」
(安藤職長)

私たちの仕事は
目に見える形では残らない。
でも、墨出しがなければ
建物は建たない

私の
仲間
komachi's
point



上/大成建設(株)・伊田所長と。「今は躯体工事ですが、これからの仕上げでは細かいところがより大事になってくるので、峯さんにはまだまだ活躍してもらいます」(伊田所長)。
下/峯が働く、豊洲新市場(仮称)7街区の水産卸売場棟の現場。地上5階建てで高さ38.4mあり、完成すれば世界最大級の立体型卸売市場となる。

って言われて、ごく一部分の間仕切りの墨を出したんです。それで、私が墨出したところにLGS(ライトゲージスタッド)とか鋼製建具が建て込まれるのを見て、当たり前だけど私の間違えたら違うところに建つんだって実感して。ちゃんと建ったのを見た時はけっこう感動しましたね」

自分のたった一つのミスが、多くの工程に影響を及ぼしてしまう緊張感。自分が計測した基準に従って大勢の職人が作業をする責任の重さ。墨出しは、その二つを味わうことができる職種だということを思い知らされた。

墨出しの仕事の特異性とは

現在、東京都江東区では、築地市場の移転先である豊洲新市場の建設が進められており、峯はその中の七街区、「水産卸売場棟」の現場に勤務している。水産卸売場棟は、市場に三つある大きな施設の一つだが、その建物だけで東西約二七〇㍎、南北約一三〇㍎もある大規模な現場だ。作業所長の大成建設(株)・伊田真司は、女性技能者だから、と峯を特別視していないことを強調する。

「これだけ大きな現場なんで、何をやるにしても大変なんですけど、峯さんもこれでもかかっていうくらい墨を出しているんじゃないですかね。作業員さんは何百人もいるので、彼女もその一人という位置づけですが、先日、月に数人選ばれる安全表彰の受賞者になり、皆の前で表彰状を渡したことを覚えてます。仕事もシビアだけど、それくらい安全に対する意識も高いということですよ」

「安全に関しては、自分がどうこうよりも、けがをしないと本当にとくさんの方に迷惑がかかるので、すごく気をつけてます。ちょっとした段差でもつまずいたりするので…」と峯は語る。

墨出しの仕事が現場の他の仕事と大きく違うのは、どんなところだろうか。

「細かさでしょうね。コンマ何ミリの仕事なんです、その辺のシビアさは他にはないと思います。」

komachi MEMO

「周囲は男性だらけなんで、どうしてもいいところと悪いところが見えちゃいますね。出会いはありそうであんまりないので、結婚できるか心配です(笑)」



profile

みね・ありさ◎1986(昭和61)年、石川県生まれ。地元高等専門学校を中退後、東京でアルバイトをしながら建設現場の仕事を探し、2008(平成20)年に田中測量事務所へ入社。墨出工として、建築を中心に複数の現場に勤務。2015(平成27)年1月より現在の豊洲新市場(仮称)水産卸売場棟ほか建設工事現場に赴任し、建築測量業務を担当。

大成建設(株)の葉桐慧佳工事係(写真左)と。「ふだん、一緒に仕事をする機会はあまりありませんが、女性の私からすれば、作業員さんが同性だと話しかけやすいし、もっと増えてくれたらうれしいです」(葉桐工事係)

何かを黙々とやるとか、細かい作業とかがけっこう好きだったので、合ってるんじゃないかな」
「実はガラス工事の仕事をやっていて、あるんですけど、そういうのに比べたら身一つで行けるのは楽だと思いますね。搬出も搬入もないし、ゴミも出ませんし」

転職後に感じた「やっぱりいい」

「峰は転職し、一年ほど建設業界を離れていたことがある。それも、かなり毛色の違う業界に。」「エステティシャンです。マッサージが好きだったので。ただ、全体とかそっち方面をやればよかったんですけど、瘦身エステの方に行ってしまった。感覚的にはともかく、営業とかのトークが向いてないって」

「男の職場から女性ばかりの世界へ。極端な転身だったが、仕事としてよりも、自分が身を置く業界としての違和感を拭い去ることができず、結局元の世界に戻って来た。」

「もともと学校も男子の方が多かったし、私、女子高とか考えられないので(笑)。戻ってきて、『やっぱりここだな』って思いました」

「一度は他の業界を覗いた彼女の言葉だからこそ、説得力も違う。」

「女性が多い職種からでも全然転職できるし、夜型だった私も早起きに慣れました。現場で働く女性が増えれば、より環境もよくなっていくと思うので、もっと入ってきてほしいです」